

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 129 号	2012年4月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—4月8日（日）平成24年度「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」の総会を終了しました。
参加は29名でした。

23年度会計収支報告後監査報告・24年度活動計画等（含む親子自然観察隊）それぞれ承認されました。

特に長期使用設備の修復については、宇部市所有の設備として市の力をお借りするため近日中に執行部が市と打合せが必要である旨協議されました。

—4月21日（土）「親子自然観察隊発会式」はふれあいセンターで隊員登録プレゼンテーション後、ビオトープに移動し食べられる野草の勉強会后、採取してんぷらにして食しました。特に掘りたてのタケノコは蒸し焼きにしておいしく戴きました。自然環境とあわせ食べられる野草・食べられない野草の勉強と成りました。会員23名 隊員11名 ジュニア隊員7名 親隊員14名合わせて55名の活動でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者 フジとキララ子どもエコクラブより8月の親子自然観察会と同じ日に活動を申し込まれています。

◎行事

—5月06日（日）維持活動（エコアップ、修復作業）

—5月19日（土）親子自然観察隊 野鳥観察

—5月19日（土）うべ環境コミニティ理事会 10時 今井会長 同左 総会 11時から
対象会員 今井会長 原田副会長・田村副会長・関根会員参加予定

3. 来訪者の声

今月はありません

4. 会員の声

「 」 （ 記）

今月はありません

5. 親子自然観察隊 4月21日(土) 春の観察会(食べられる野草)

(隊員11名、ジュニア隊員7名、保護者14名、一般会員23名)

今年より新しい組織としての「親子自然観察隊」が始動し、14家族の内13家族が出席し、今年第1回目の観察会が無事と行われました。天気予報では昼ごろより降雨の可能性もありましたが、曇天、強風の中とはいえ、雨にも会わず楽しく野草の観察と採集、試食会を終えました。

山野草の採集は思い思いに行いましたが、思った以上にバラエティーに富み、いろんな山野草が摘み取られていました。北村講師の準備が手際よく、わかりやすい資料が作られていましたし、出かける前の説明も実物での説明がなされ、わかりやすかったからだと思います。



現地の東屋の前で記念撮影



試食会が始まりました

今年はタケノコ掘りが人気で、10数名ほどが参加、10本以上の大きなタケノコを掘り取りました。さっそく現地の東屋で調理しテンプラに仕上げましたが、あっという間になりました。小型のタケノコはそのまま炭火で焼き、あつあつのまま皮をむき、少量でしたが美味でぜいたくな食べ方ができました。現地ならではの試食会でした。

トリカブトの事故がありましたので、北村会員はわざわざ間違えやすい「ニリンソウ」を持参し見せてくれました。幸い、ビオトープ付近にはトリカブトはなく安心ですが、プロでも間違えるほどだそうです、大変勉強になりました。

今年は寒い日が続き、動植物の出現が遅いようで、4月10日ごろより羽化するカワトンボがようやく羽化を始めた、今頃には山中に隠れてしまうカスミサンショウウオでさえ、まだ卵のままの状態で発見されたり、上旬に芽吹くはずのタラの芽が今頃食べごろを迎え、たくさん採集され調理できないほど採集されたりと、いつもと違った自然状況が目立ちました。

会員の好意でオムスビを少々用意し提供したのですが、大変好評で、もっとほしいという隊員もありました。用意する会員は大変ですが、楽しく食べる姿を見ると、次回は現地でご飯を炊き、十分に食べていただこうかなとも考えますが、乞うご期待?・・・。

管 哲郎 記

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（ 管 哲郎 記）

（47）ミヤマカワトンボ（カワトンボ科・アオハダトンボ属） *Calopteryx cornelia* SELYS

日本で一番大型の均翅亜目とされ、世界でも大型種の中に入ります。イトトンボ類、カワトンボ類のなかで一番大きなトンボになります。ヤゴも大型で、イトトンボ類の2～3倍の大きさです。

日本特産種で北海道から九州まで棲息しますが、北海道では産地が限られているようです。山地や丘陵地の清流を好み、初夏から夏の溪流に多く見られます。

5月～8月頃まで溪流にすむカワトンボやサナエトンボたちと一緒に交じって棲んでいます。オスの羽は閉じていると茶褐色ですが、広げると翅の影が赤褐色に映り大変きれいです。このトンボも潜水産卵しますが、1時間前後は平気で潜って産卵することができます。



ミヤマカワトンボ ♂



ミヤマカワトンボ ♀



ミヤマカワトンボ ♂ 到立



アサヒナカワトンボ（左）と遊ぶ本種



ミヤマカワトンボの終齢ヤゴ



オス同士の縄張り争い

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

- 1) 24年度総会も済、新しい活動計画でビオトープの三つのコンセプトに向かって実施しなければなりません。事業が12年経った今 ①会員の高齢化 ②施設の老朽化 ③会員の減少等々で維持管理には活動力・費用が更に必要と成ってきています。

会員各位の高いレベルの活動をおねがいするものです。

2) 会員消息

・退会

原 隆（元副会長）4月9日ご逝去されました。会からご霊前を供えお悔みしました。

小田 臨 小田政恵 会員が周南市に住居変更されたため退会されました。

・新入会員

寺本明広 山口大学農学部 山口市穂積町1-2-807 080-1431-3175 〒753-0824

8. 編集後記

新体制で始まる今年、総会を終え活動開始。自然観察隊も結成され、まずは食べられる野草を探し天ぷらにして食べるこの行事から始まります。この時しか口にする事がない物、子供達がどんな顔をして食べるのか、いつも楽しみです。1年間このビオトープでの活動を通して自然の色々なことに目を向け目を留めて楽しんでいけるといいなと思います。

（ 松本 フデ子 記 ）